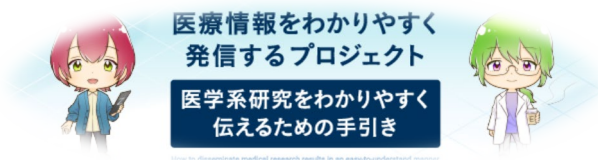


2023年3月16日 令和4年度成果発表シンポジウム

# 「医学系研究の成果をわかりやすく発信する手引き」

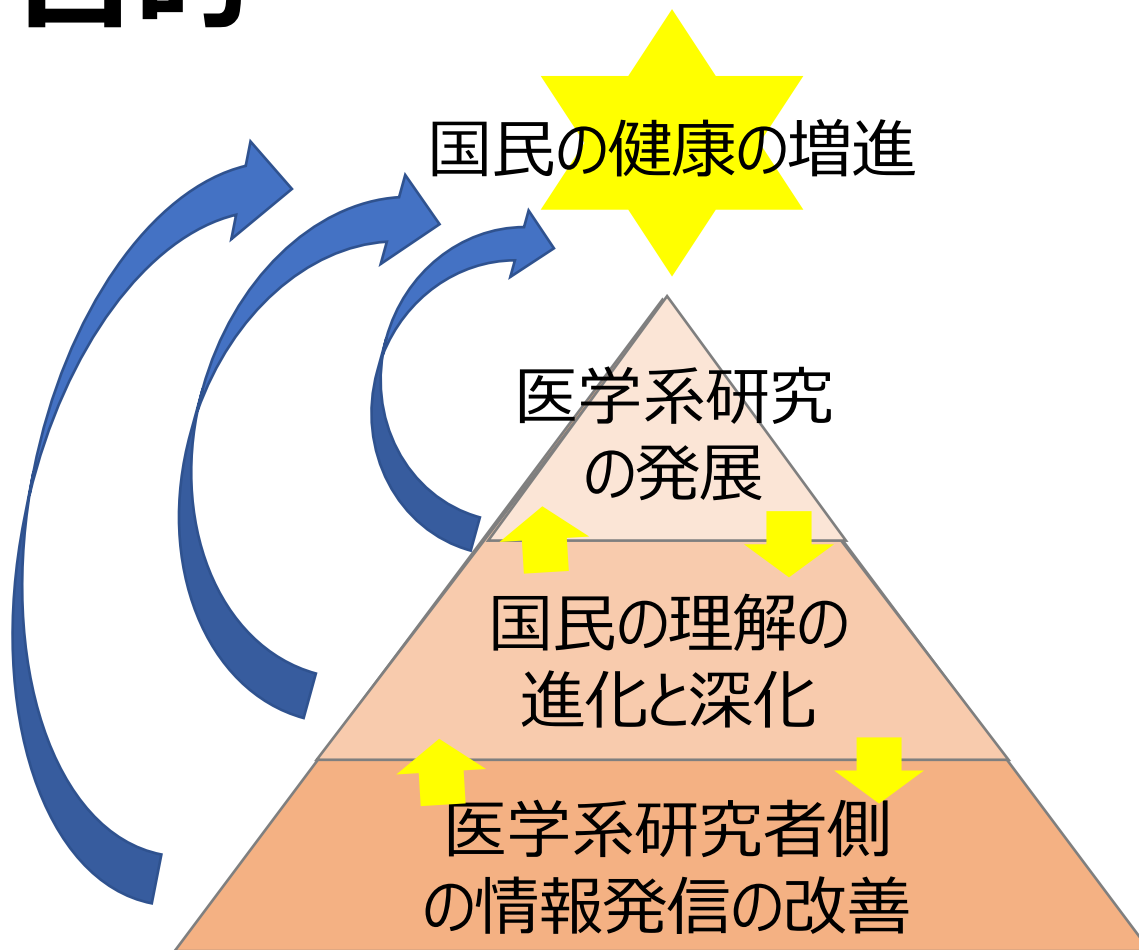
## 令和4年度成果発表シンポジウム

### ～手引きの改善と発展～



令和4年度 研究開発代表者  
埼玉県立大学 山田恵子

# 目的



## 本事業のねらい

- 研究に対する国民の理解を促進し、日本の医学系研究を発展させること
- 医療・医学に対する国民の理解を深めて国民の健康を増進させること
- 医学系研究者が研究成果を国民に発信する際の留意点や推奨される手順をまとめ（「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」、令和3年度）、改善を加えつつ広く普及させ、医学系研究者が臨床研究等の成果を適切に情報発信できるように推し進めること（令和4年度）

# 研究が必要とされた背景

- 研究を社会に還元するため、情報発信する機会が増加
- そもそも医学系研究は必ず一般の人の協力が必要なので、情報発信が必須
- COVID-19により医療情報が氾濫（インフォデミック）

手引きの作成



しかし、発信のための手引きがない

- 対象：研究者、広報担当者（医学情報の発信者）
- 想定した媒体：プレスリリースなど、フォーマルな書き言葉

# 事業メンバー

## 一家 綱邦

国立がん研究センター 研究支援センター 生命倫理部 部長

## 市川 衛

一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会 代表／広島大学医学部 客員准教授

## 井出 博生（令和3年度 研究開発代表者）

東京大学 未来ビジョン研究センター 特任准教授／日本医学会 連合広報委員

## 井上 悠輔

東京大学医科学研究所 公共政策研究分野 准教授

## 大江 和彦

東京大学大学院医学系研究科 教授／前日本医学会連合広報委員会 委員長

## 小川 留奈

帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 研究員／ヘルスライター

## 風間 浩

株式会社ケアネット 執行役員 C M O／東北大学 特任教授

## 田中 牧郎

明治大学 国際日本学部 専任教授／「病院の言葉」委員会作業部会長

## 田中 祐輔

青山学院大学 文学部 准教授

## 野口 真理子

株式会社博報堂 マーケットデザインコンサルタント

## 早川 雅代

東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 特任研究員／元国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供部室長

## 山口 育子

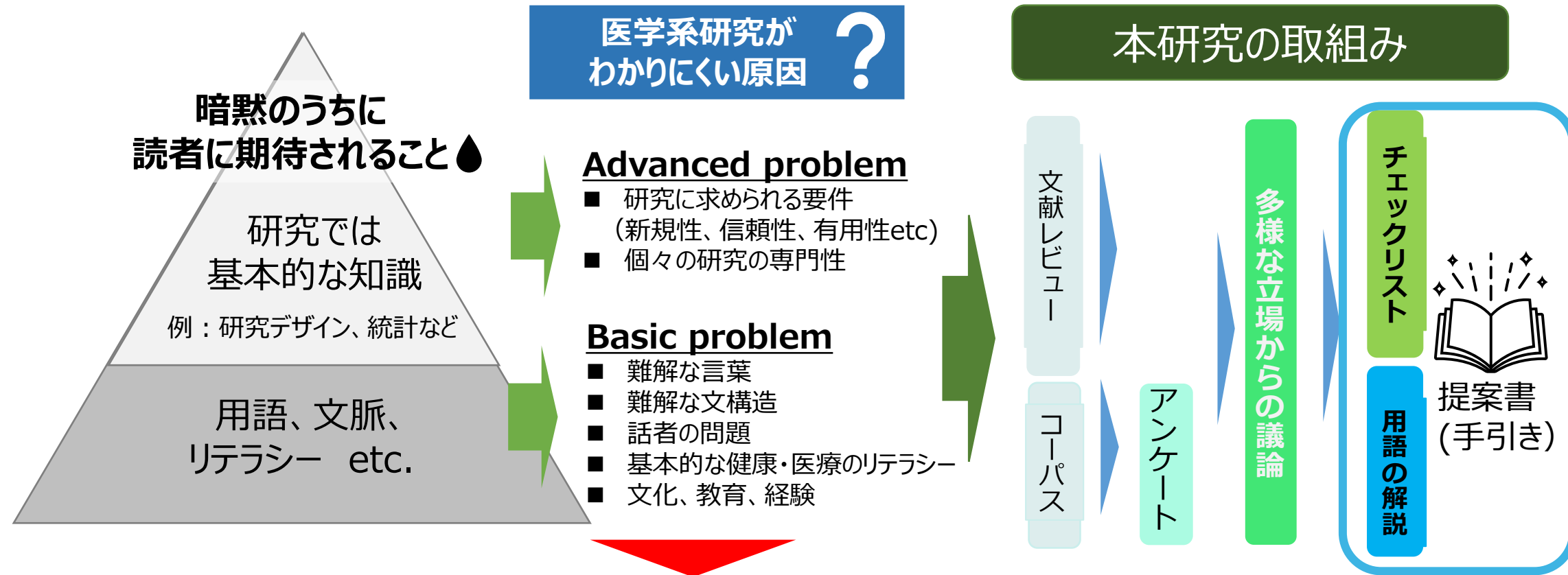
認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長

## 山田 恵子（令和4年度 研究開発代表者）

埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授／株式会社オールアバウト 女性の健康ガイド

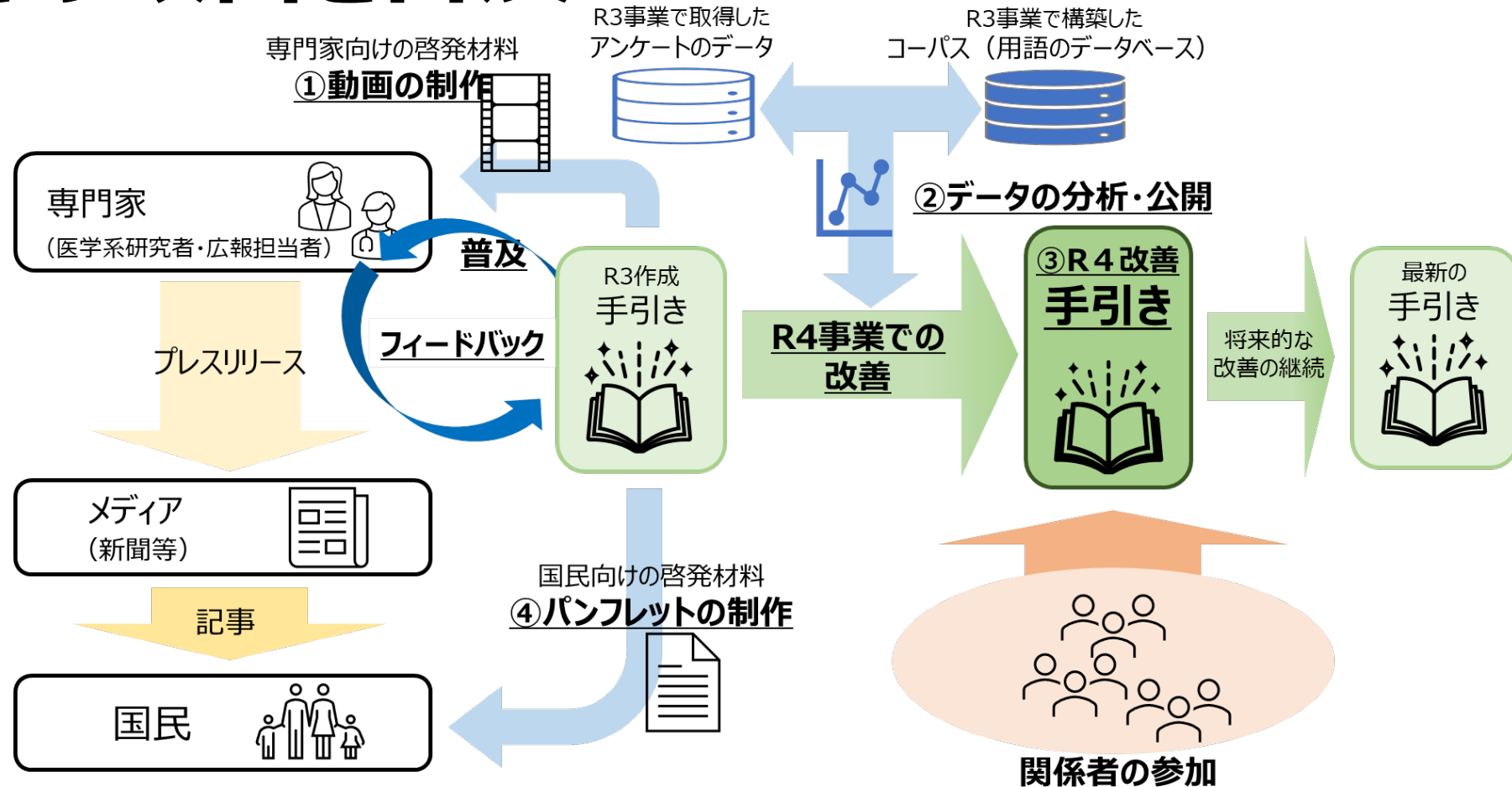
（五十音順）

# 医学系研究はなぜわかりにくい？



- 医学系研究の理解を促すために、わが国ではこれまでオーストラリア発祥の活動を日本に導入する試みなど、関係者の取組みによりAdvanced problemの解決に向けた努力が行われてきた。
- これらの取組みを補いつつ、用語そのものを対象とした検討も行う必要がある。

# 手引きの改善と普及



## 【専門家向け】① 動画

② コーパス（用語のデータベース）やアンケート調査の結果や分析結果をまとめた資料

③ 改善した手引き（イラストや図表等を追加し、プレスリリースの改善事例も示した実践的なもの）

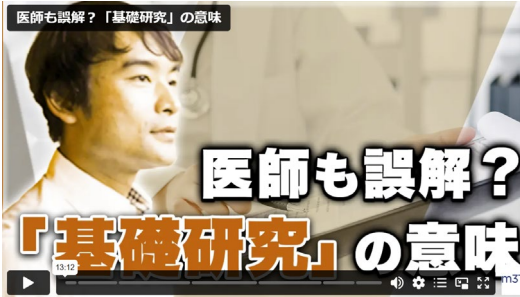
【国民向け】④ 手引きを基にしたパンフレット：一般の人が医学系研究の情報を受け取る際の留意点をまとめたもの

普及→フィードバック→改善のサイクルを支える体制



用語の説明動画 計6本制作（15-20分/本）

| 【用語】タイトル案            | 取り上げる用語                  | URL                                                                                               | 視聴数    |
|----------------------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 「有効性」の定義、一般と違うかも！    | 有効性、安全性、信頼性、リスク          | <a href="https://www.m3.com/news/iryoishin/1066762">https://www.m3.com/news/iryoishin/1066762</a> | 7,000  |
| 「ガイドライン」正しく伝わっていない？  | 標準治療、ガイドライン、エビデンス        | <a href="https://www.m3.com/news/iryoishin/1078143">https://www.m3.com/news/iryoishin/1078143</a> | 13,000 |
| 治験の説明、誤解を減らすために      | ランダム（無作為）化試験、プラセボ、偽薬、候補薬 | <a href="https://www.m3.com/news/iryoishin/1087667">https://www.m3.com/news/iryoishin/1087667</a> | 12,000 |
| 気を付けたい！「有害事象」の使い方    | 有害事象、副作用                 | <a href="https://www.m3.com/news/iryoishin/1112512">https://www.m3.com/news/iryoishin/1112512</a> | 7,000  |
| 研究者も誤解？！「基礎研究」の正しい意味 | 臨床研究、基礎研究                | <a href="https://www.m3.com/news/iryoishin/1117669">https://www.m3.com/news/iryoishin/1117669</a> |        |
| 研究参加者にどう説明？「コホート研究」  | コホート研究、転帰、エンドポイント        | 3月UP（予定）                                                                                          |        |



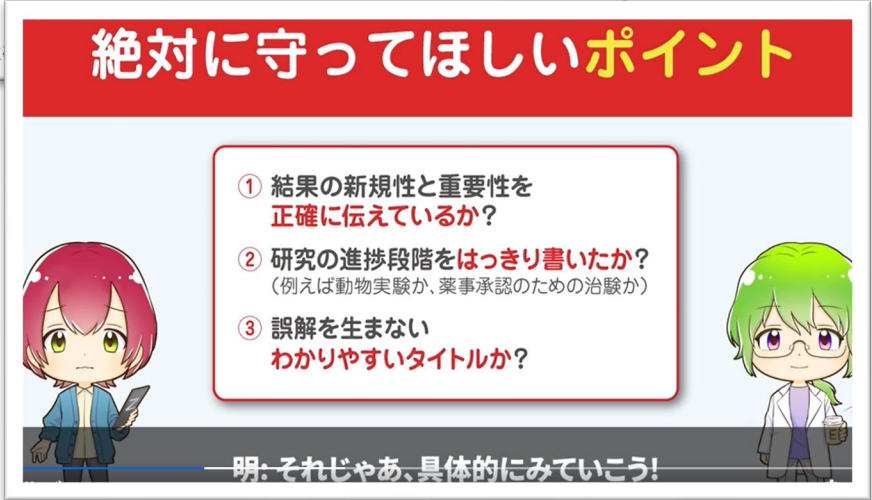
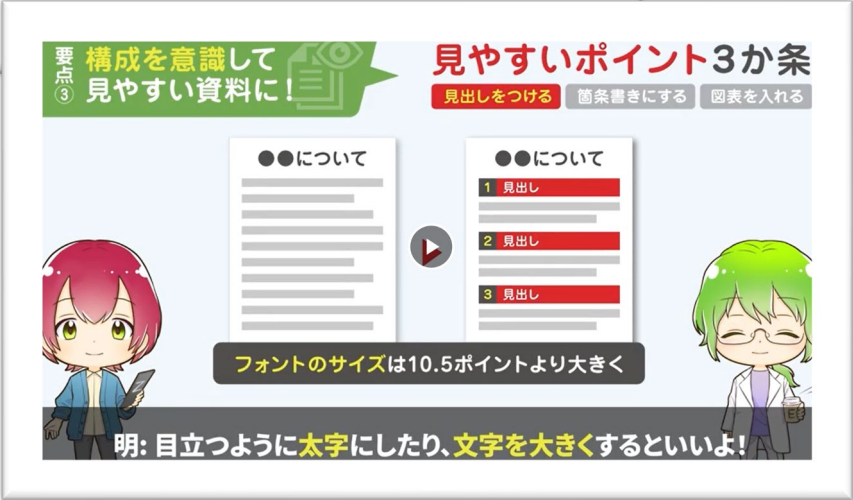
チェックリストの説明動画

計2本制作（6～7分/本）

| 【チェックリスト】タイトル案         | 手引きでの対応部分   |
|------------------------|-------------|
| わかりやすいプレスリリースを作ろう！～基本編 | 基本編 チェックリスト |
| 研究内容を確かに伝えるには～実践編      | 実践編 チェックリスト |



キャラクター  
（明さんと快さん）



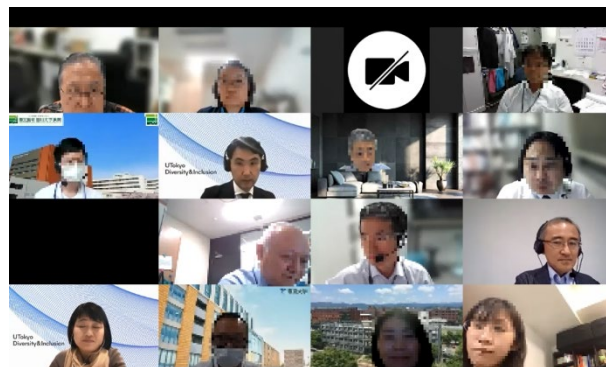


# ワークショップ開催（計4回）

## ①医療関係者向け(計3回)

### オンライン（2回）

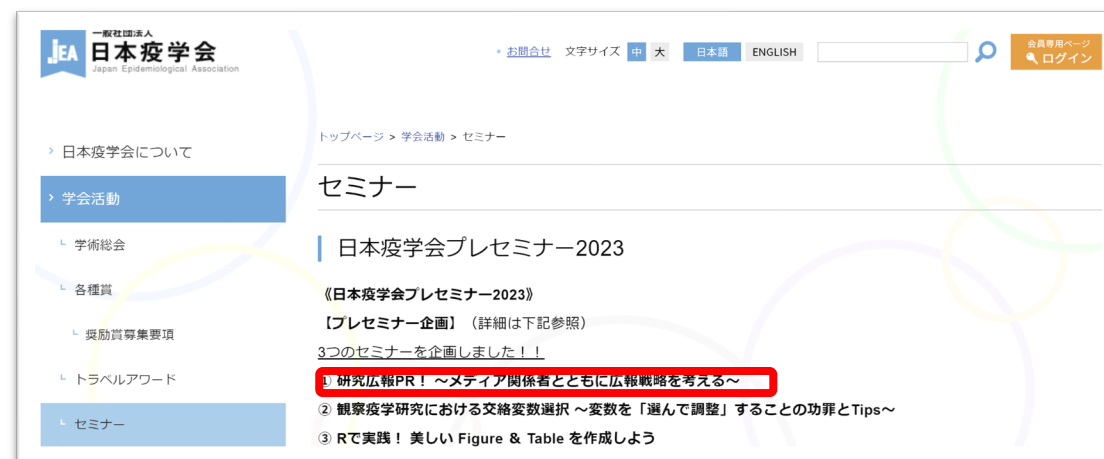
- ・チェックリストを使って実際にプレスリリースを修正し、発表
- ・用語の解説の改善のディスカッション



### 対面（1回）

### 日本疫学会プレセミナーで実施

- ・チェックリストを使って実際にプレスリリースを修正し、発表とディスカッション

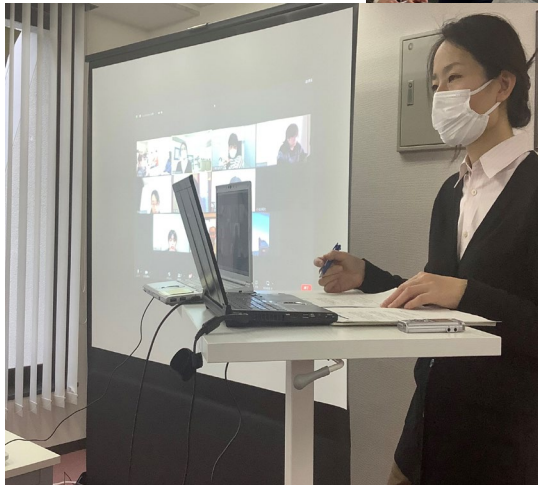


## ②大学院生向け（計1回、公衆衛生学の授業内）

### ワークショップ内容

チェックリストを用いて実際にプレスリリースを修正し、発表

**認定NPO法人 ささえあい医療人権センターCOMLの主催するイベントにて意見交換を行った。（一般の方は対面8名、オンライン8名の計16名が参加）**



COMLの会報でも紹介

## コーパス解析

用語の解説  
難解語・重要語

## エビデンス

**注意!**  
「エビデンス」は、一般の日本語とは使い方が違います

**語の説明**  
医学系分野では、「この治療法がよい」といえる証拠。薬や治療方法、検査方法など、医療の内容全般について、それがよいと判断できる証拠のこと\*を指し、「科学的根拠」と同じ意味で使われる。一般的には複数の研究が同じ結果を指し示すことを証拠と考える。

**一般の人の理解・認識**  
医学系分野以外でも使われる用語であり、日本語訳である「証拠」や「根拠」があるためか、知っていると言えた人が多かった（認知率 53.8%）。そのうち「ある治療で素晴らしい効果があったという1つの臨床試験の結果のこと」だと思っていた人は45.7%で、認知していた人のうち半数程度は正しく理解していなかった。

**注意!**  
一般の日本語での「エビデンス」の使われ方  
漠然と証拠、根拠と言いかえることが多く、複数の証拠の積み重ねというニュアンスは伝わりにくい。  
例) エビデンスなしに行動を制限するのは難しい  
○○の方が有利というエビデンスはない

**ポイント**  
医療の領域では、たとえ素晴らしい効果があったという研究であっても、多くの場合、1つの研究だけで「エビデンス」があるとはいえないので、誤解させないように伝える必要がある。  
新型コロナウイルス感染症の情報で耳にする機会が増えたと思われるが、正しく理解されていない可能性が高いため、言い換えたり、補足説明をしたりするとよい。

**言い換え例**  
「エビデンスがある薬」→「よく効くことが（いくつかの）研究によって確かめられている薬」  
「エビデンスに基づく治療」→「（いくつかの）研究の結果、これがよいと証明されている治療」  
（文脈に応じて日常的な表現で言い換える）\*

**例えばこんな言い換え使い方**

**注意!**  
「エビデンス」は、一般の日本語とは使い方が違います

用語につけた吹き出し

「」は一般の日本語とは使い方が違います

⇒医学系研究用語は一般の使われ方と違う使われ方をしており、それが誤解の原因になっているのでは？

## コーパスからわかったこと（“適応”を例として）

医学系研究用語では

適応 = apply

“効果が認められ、薬や治療法が使用の対象になること”

文例) 「治療の適応がある」など

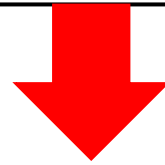
一般では

適応 = adapt

“外部の環境に適するように行動や意識を変えること”

文例) 「国際システムを適応させる」「緊張に適応できなかった」

※ただし、医療でも「適応障害」という病名もあり、これは後者の使い方



手引きに反映

# 手引きの改訂

## 主な改訂箇所

### 1. ワークショップ/COMLでの一般の方との議論、コーパス解析を踏まえた「用語」の説明の整理

①内容の加筆・修正

②図の挿入（追加）

③「一般の日本語での使われ方」の追加

コーパスの結果を反映、ラベル「注意 一般の日本語とは使い方が違います」がある用語

④「例えばこんな言い換え、使い方」のカテゴリー化、ラベル付与  
「言い換え例」、「補足説明例」、「注釈例」、「図による説明例」など

### 2. 「チェックリスト」の整理

※動画、一般向けパンフレットとの整合

### 3. 索引の追加



感度、特異度

|            |                                                                                                                                                                                                    |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 語の説明       | 医学系研究において、「感度」、「特異度」は、検査の性能を示す値として組み合わせて使われる用語である。<br>「感度」とは、病気の人が正しく病気であると判断される確率のこと。<br>「特異度」とは、病気でない人が正しく病気でないと判断される確率のこと。                                                                      |
| 一般の人の理解・認識 | 一般の人の「特異度」の認知率は22.0%だった。誤答率は68.9%で、多くの人がまれな病気を見つけるための検査を特異度が高い検査だと考えていた。語感から、遺伝子に関連する用語であることを連想する人もいた。なお、専門家でも「特異度」を正しく理解している人は半数程度にとどまっていた。                                                       |
| ポイント       | そもそも一般の人は検査の結果が必ずしも正しくないことを認識していないかもしれない。さらに、日常生活で「感度」と「特異度」を共に使い、性能や当てはまりの良さを表現することはない。生活感覚を基に「感度」はおおよその見当はつけられても、「特異度」は見当がつかない。またこの2つの用語が組み合わせて使用されることもわからない。よって、これらの用語をそのまま使うのは避け、別の平易な表現を使用する。 |

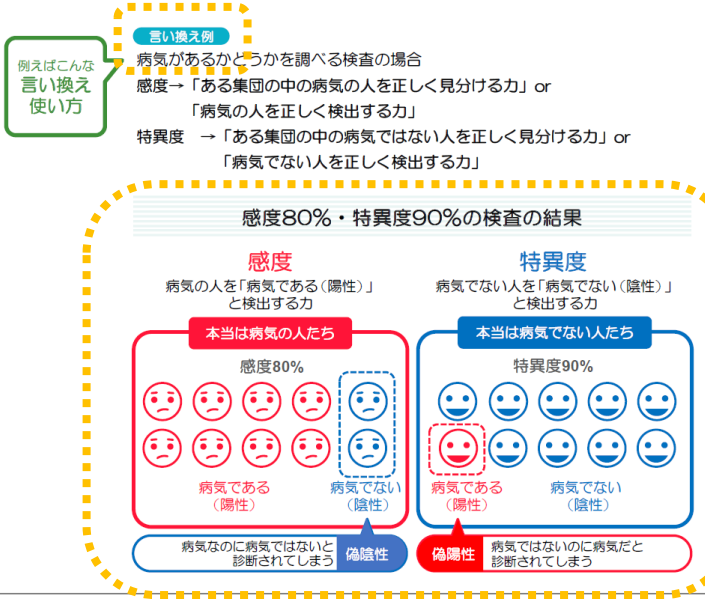
例えばこんな言い換え使い方

感度 → 「病気の人のうち検査で陽性となる人の割合」  
特異度 → 「病気ではない人のうち検査で陰性となる人の割合」

「検査の感度と特異度が共に高いということは、病気の人を正しく見分け、病気でない人も正しく見分けられるということ」

感度、特異度

|            |                                                                                                                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 語の説明       | 医学系研究では、主に検査の能力（検査がどれくらい正しいか）を示す値として組み合わせて使われる。<br>病気があるかどうかを調べる検査では、「感度」は、病気の人を検出する力を示し、「特異度」は、病気でない人を検出する力を示す。両方の値が高いほど良い検査方法である。しかし、両方が100%の検査は存在しないため、検査の結果はいつも正しいわけではない。 |
| 一般の人の理解・認識 | 一般の人の「特異度」の認知率は22.0%だった。そのうち、誤答率は68.9%で、多くの人がまれな病気を見つけるための検査を特異度が高い検査だと考えていた。語感から、遺伝子に関連する用語であることを連想する人もいた。なお、専門家でも「特異度」を正しく理解している人は半数程度にとどまっていた。                             |
| ポイント       | 多くの人が、検査の結果が必ずしも正しくないこと自体を知らない可能性がある。生活感覚を基に「感度」はおおよその見当はつけられても、「特異度」は見当がつかない。よって、これらの用語をそのまま使うのは避け、言い換えるか、補足説明をする必要がある。                                                      |





# 一般向けリーフレットの作成

## ●対象

- 医学系の記事を取り上げる機会があるが、専門ではないメディア関係者
- 医学系の内容を取り上げる機会があるインフルエンサー
- 情報の受け手となったり、拡散をしたりすることもある一般の方

## ●目的

医学系研究を取り上げる際に、最低限知っておいていただきたいこと

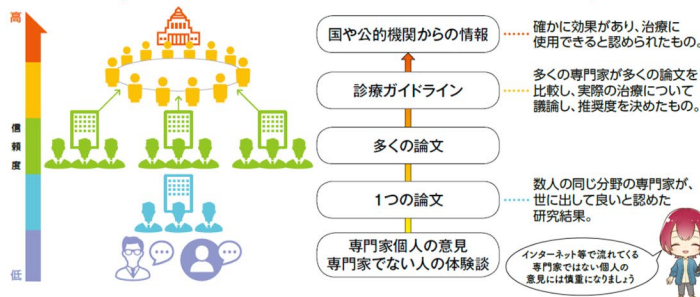
# 一般向けリーフレットの作成

（その情報はどこから？ 出どころをチェック！）

ストップ  
早とちり

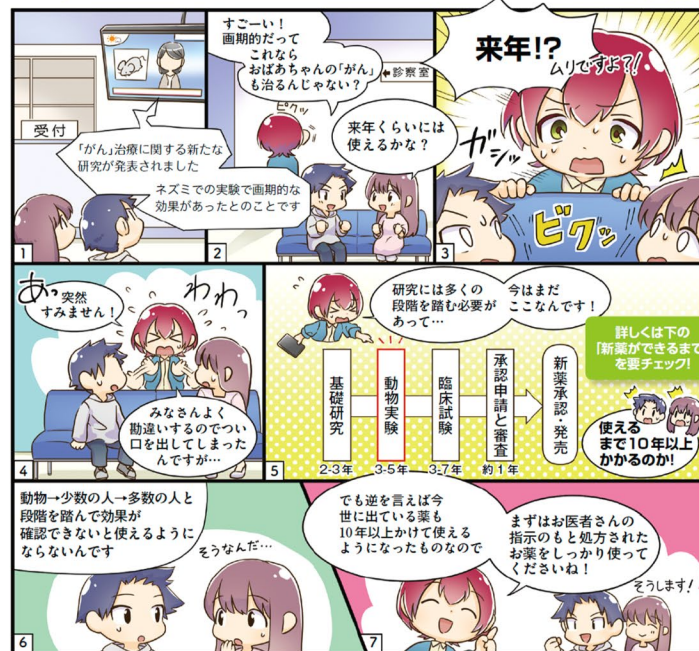


（薬や治療法の情報の出どころによる信頼度）

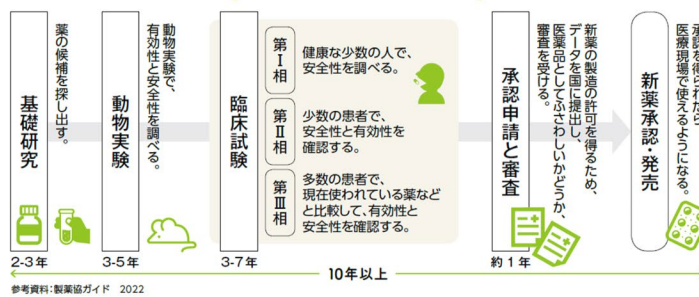


（その薬いつ使えるの？ 研究段階をチェック！）

ストップ  
早とちり



（新薬ができるまで）



医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト制作

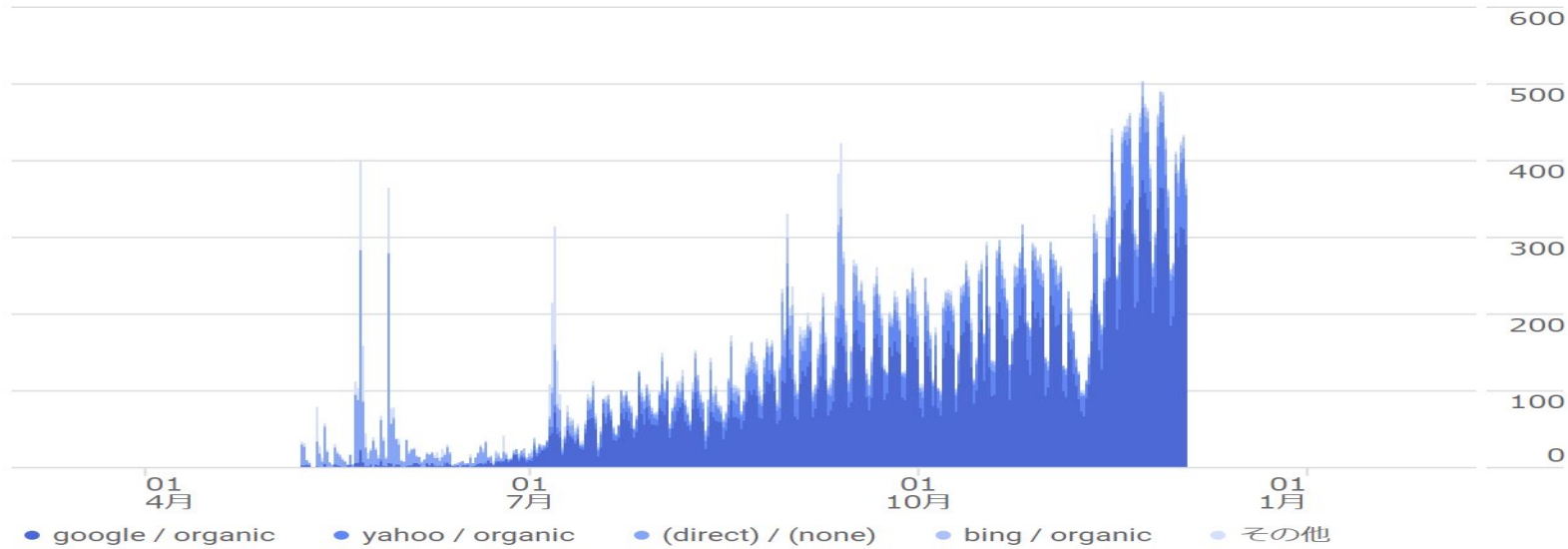
新しい治療や  
薬の情報を  
見極めるために  
〔基礎編〕

ストップ  
早とちり



日本医療研究開発機構 (AMED) 委託事業

# 普及に向けての取り組み



ホームページのユーザーは順調に増加中

手引きダウンロード数 約2500(3月8日現在)



昨年度のHP



3月10日に改訂



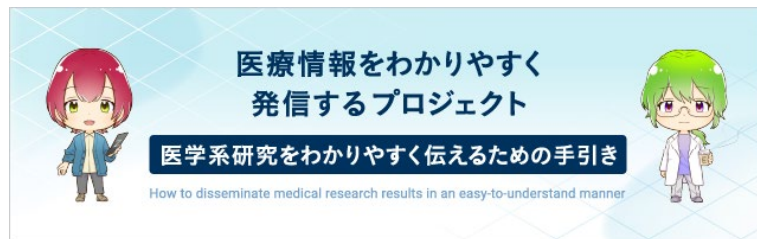
# 普及に向けての取り組み

## 医療系大手メディア3社との協働企画

【掲載時期】 2023年3月上旬（計2回）

【内容】本プロジェクトの趣旨に賛成して頂いた医療系メディア3社（m3、日経メディカルOnline、ケアネット）による共同記事の掲載

【目的】より良い医学研究の情報発信に対する必要性和問題意識を示すこと



CareNet

研究成果、誤解なく発信できていますか？「信頼性」の意味は研究者と一般人で違う

提供元：ケアネット [ツイート](#) [いいね!](#) 公開日：2023/03/05

は3月16日（木）に、「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」シンポジウムがオンラインで開催される。シンポジウムに先立って、本プロジェクトの主任研究員である井出 博生氏と山田 恵子氏が、成果の一端を2週にわたって報告する。第1回は井出氏が、医学系研究で使われる用語が研究者と一般人で意味が異なるケースについて、調査結果を踏まえて紹介する。



医療情報をわかりやすく発信するプロジェクトでは、AMED研究開発ネットワーク事業（令和3年度主任研究員：井出 博生 東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授、令和4年度主任研究員：山田 恵子 埼玉医科大学保健医療福祉学部准教授）として、2022年3月より「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」をWebサイトで公開するなど、医師や研究者が研究成果を世の中に正確に発信していくための研究・支援を行っています。

その一環として、医学系研究で使われる典型的な用語のアンケート調査を行いました。その結果は上記の手引きの作成に活用したほか、分析結果を学会（ヘルスコミュニケーションウィーク2022）で発表しました。最近では大学内、学会で活用していただく場面も出てきています。

m3.com

医療最新 [新着](#) [レポート](#) [インタビュー](#) [オピニオン](#) [スペシャル企画](#) [医師調査](#)

研究成果、誤解なく発信できていますか？「信頼性」の意味は研究者と一般人で違う

医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト◆Part1

オピニオン 2023年3月5日（日）08時 井出博生（東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授）

[ツイート](#) [いいね!](#) [ニュースメールを登録する](#)

お読みください

オープンインタビュー、好評連載中！  
[記事を読む](#)



AMED研究開発ネットワーク事業「医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト」の主任研究員を務める、井出博生・東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授にご寄稿いただきました。

医療情報をわかりやすく発信するプロジェクトでは、AMED研究開発ネットワーク事業（令和3年度主任研究員：井出博生 東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授、令和4年度主任研究員：山田恵子 埼玉医科大学保健医療福祉学部准教授）として、2022年3月より「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」をWebサイトで公開するなど、医師や研究者が研究成果を世の中に正確に発信していくための研究・支援を行っています。

日経メディカル

医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト Part1

研究成果、誤解なく発信できていますか？

「信頼性」の意味は研究者と一般人で違う

2023/03/05

東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授 井出博生

[医師・患者関係](#) [コミュニケーション](#)

[印刷](#) [ブックマーク](#)

医療情報をわかりやすく発信するプロジェクトでは、AMED研究開発ネットワーク事業（令和3年度主任研究員：井出博生 東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授、令和4年度主任研究員：山田恵子 埼玉医科大学保健医療福祉学部准教授）として、2022年3月より「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」をWebサイトで公開するなど、医師や研究者が研究成果を世の中に正確に発信していくための研究・支援を行っています。

その一環として、医学系研究で使われる典型的な用語のアンケート調査を行いました。その結果は上記の手引きの作成に活用したほか、分析結果を学会（ヘルスコミュニケーションウィーク2022）で発表しました。最近では大学内、学会で活用していただく場面も出てきています。



# 今後の課題

1. 手引きの改善のサイクルの確立とさらなる普及
2. 個別の課題
  - チェックリストの基になる日本語のエビデンスの少なさ
  - 手引きを使うことで得られる効果を測定
  - ワークショップの方法の確立と、教育方法としてのマニュアル化
  - 媒体（ソーシャルメディアなど直接の情報発信）による違い
  - 一般の人にどこまで医学系研究の情報を理解してもらうことを望むか



# ご清聴ありがとうございました



手引き、一般向けリーフレットはホームページからダウンロードできます。  
動画（用語、チェックリスト）はホームページでご覧いただけます。  
教育・研究目的での資材、データ等の利用はホームページのお問い合わせからご相談ください。